

牛の負荷軽減へ 海上輸送を検討

来年の全国和牛共進会

来年8月の全国和牛能力共進会北海道大会に向けた県戦略推進会議が岐阜市宇佐南の県JA会館で開かれ、牛の輸送ルートについて、10月にフェリーを使った海上主体の輸送試験を行うって決めることを確認した。

共進会は「和牛のオリンピック」と呼ばれ、5年に1度開かれる。県によると、前回の鹿児島大会では牛を陸路で運んだが、輸送中のストレスを軽減するためフェリーの利用を検討することにした。牛が落ち着ける環境を整え、体力の消耗を抑える。輸送試験では肥育牛3頭を運び、現地で食肉処理を行って肉質を確認。輸送ルートを最終決定する方針。

会議には江崎禎英知事や県農業協同組合中央会(JA岐阜中央会)の櫻井宏会長ら約20人が出席。県戦略推進会議の村下貴夫会長は「北海道大会まで1年を切った。日本一奪還に向けた取り組みを進めている」とあいさつ。会議では、2032年の岐阜大会についても議論した。(青山和史)



あいさつする村下貴夫会長＝岐阜市宇佐南、県JA会館